

学校法人多摩美術大学の平成18年度(2006年度)の事業報告をとりまとめましたのでご報告申し上げます。

1.事業の概況

以前から言われていた2007年問題、いわゆる「全入時代」がいよいよ現実のものとなる中、大学を取り巻く環境は予想を上回る厳しい状況になっています。18才人口の減少は平成20年(2008年)から120万人台が10年ほど続き、その後本格的に減りつづけ、平成62年(2050年)には60万人台にまで下降すると予測されています。昨年の4年制私立大学560校のうちほぼ4割にあたる222校が定員割れを起こしており、昨年の3割160校の定員割れという数字から見ると、来年は5割が定員割れとなる危険性も十分あると言われています。

また一方で、国立大学は独立法人化し、国からの運営交付金が毎年1%ずつ減少することとなり、それを受けて、国立大学は定員を超えて学生の確保に乗り出しています。その結果私立大学ではさらなる競争の激化が進むことになると考えられます。

こうした状況のもと、大学の二極化が更に進んでいます。各大学は学部学科を再編成し、質の高い学生を集め、さらに大きな役割を果たす大学を目指し、生き残りを賭けて競争が始まっています。

本学は、質の高い学生を集め、時代を先取りした教育を進めるため、建学の理念に基づいて、さらなる改革に取り組んでまいりました。

大学改革の推進

学校教育法の改正に基づき、教員組織の整備を進めるため、学則の改正を行いました。また学長の任期満了に伴い学長選挙があり、清田義英新学長が選出され、新体制が構築されることとなりました。すでに大学基準協会による第三者評価を目指して、その準備に取り組んでおりましたが、申請の時期を1年先に延ばして、この新体制で臨むことになりました。

そして、大学院博士前期課程デザイン専攻の入学定員について三十五名から四十五名への定員増の届出を行い、受理されました。また、「人類の創造に関する諸問題を芸術と文明の関係において究明し、日本の芸術界・思想界のみならず広く世界のそれに資することを目的」として、芸術人類学研究所が設立されました。

さらに、産学共同研究をはじめとする本学の特色を生かした研究・教育に取り組み、昨年に引き続き特色GP、現代GP、クレストなどに採択されています。

各部門における主な報告は以下の通りです。

企画広報部・・・高校、予備校等における模擬講義など広報の強化。動画サイトtamabi.tvの開設など。

教務部・・・パシフィック・リムなど海外の大学との提携。大学院の定員増。GP、クレストなど研究支援の強化。全学科共通のPBL科目の充実。

学生課・・・奨学金等の拡充、学生ハンドブックの小型化。留学生による語学講座の実施。

就職課・・・就職支援プログラムの充実、教員との連携強化、人的環境の整備。

造形表現学部事務部・・・社会人学生の授業料減免の拡充(39名から53名へ)。

図書館・・・利用者サービスの充実(レファレンスの質の向上、HPの拡充等)。ICタグの導入とデータ作成。

美術館・・・年間8本の企画展。「三カ国教員版画」展、「小作青史」展、「ジョージ・リランガ」展など。

メディアセンター・・・プロジェクトルームの環境整備。LAN支援。映像ワークショップ開催。第二工作センター完成。

芸術人類学研究所・・・研究会・調査等66回。シンポジウム2回、公開研究会5回、特別講義のプロデュース等。

生涯学習センター・・・複数プロデューサー制の採用。八王子キャンパスでの開講。年間126講座、受講生数3,681名。

管理運営面の改革推進

大学運営 学校教育法の一部改正にともない、教員組織の整備のため学則の改正を行いました。

施設整備

八王子キャンパス芸術学科・情報デザイン棟が1月に、新図書館が平成19年2月に竣工。
八王子キャンパス第二工作センターが平成19年1月に竣工。
八王子キャンパス・排水設備工事(厨房除外施設、除害排水管路埋設、大栗川埋戻し)及び造園工事に平成18年9月着工。
八王子キャンパスに隣接する大栗川廃川部分等584㎡他を購入。
その他

当期に行った主な事業

創立70周年記念事業(寄付金募集)

平成17年10月に挙行された本学創立70周年記念式典を機会に、記念事業として寄付金を募集したが、前年に引続き募金目標の2億円を目指して、募集活動を進めた。

第三者評価への取組

・昨年度に引続き、大学基準協会による第三者評価への全学での取組みを行い、教員業績データベースの構築、定員増等の対応を進め、平成20年に学長以下新体制で加盟申請に臨む。

校舎等建設関係

・平成17年10月に着工した八王子キャンパス新図書館、情報デザイン・芸術学棟が平成19年2月に完成。

・東南駐輪場を拡張整備し、守衛所の建築工事が1月に完成。

・平成18年6月に第二工作センター建築工事に着工し、平成19年1月に竣工。

・平成18年9月に八王子キャンパス・排水設備工事(厨房除外施設、除害排水管路埋設、大栗川埋戻し)及び造園工事に着工。

組織変更

・研究部門の充実のため芸術人類学研究所を設置。

平成18年度予算の執行状況

当期の予算執行状況について、概要を報告します。なお、金額は千円未満を四捨五入して
なお、金額は千円未満を四捨五入して表示しています。

(1) 資金収支計算

資金収支計算について、その主な内容を報告します。

【資金収支計算総括表】

(収入の部)

(単位:千円)

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	7,722,000	7,812,534	90,534
手数料収入	259,500	266,093	6,593
寄付金収入	60,000	99,675	39,675
補助金収入	504,250	554,716	50,466
資産運用収入	63,000	102,877	39,877
資産売却収入	500,000	500,000	0
事業収入	72,800	86,546	13,746
雑収入	131,250	153,371	22,121
前受金収入	2,691,400	3,334,887	643,487
その他の収入	2,449,160	2,441,160	8,000
資金収入調整勘定	3,515,663	3,614,875	99,212
当年度資金収入合計(A)	10,937,697	11,736,984	799,287
前年度繰越支払資金	7,213,107	7,213,107	0
収入の部合計	18,150,804	18,950,091	799,287

入学志願者数が見込みを上回ったことにより予算額を上回りました。

70周年記念事業資金として3月/末日現在で法人19件、個人188名の方から総額45,725千円の募金および芸術人類学研究所運営資金や造形表現学部映像演劇学科教育資金として寄付金をいただきました。

私立大学経常費補助金434,238千円その他、大学改革推進等補助金「特色ある大学支援プログラム」と「現代的教育コース取組支援プログラム」および私立学校施設整備費補助金や政府開発援助外国人留学生修学援助費補助金の交付により予算額を上回りました。

(支出の部)

科目	予算	決算	差異
人件費支出	3,723,800	3,696,945	26,855
教育研究経費支出	1,556,400	1,346,113	210,287
管理経費支出	332,300	289,197	43,103
借入金等利息支出	122,500	121,699	801
借入金等返済支出	595,400	595,390	10
施設関係支出	5,010,500	5,441,722	431,222
設備関係支出	868,000	504,428	363,572
資産運用支出	2,500,000	2,648,842	148,842
その他の支出	249,376	284,654	35,278
予備費	—	—	0
資金支出調整勘定	1,363,523	1,311,847	51,676
当年度資金支出合計(B)	13,594,753	13,617,143	22,390
次年度繰越支払資金	4,556,051	5,332,948	776,897
支出の部合計	18,150,804	18,950,091	799,287

預金金利の上昇や短期有価証券による資金運用により予算額を上回りました。

新校舎への引越し費用やパンフレット(本学と米国アートセンターカレッジオブデザインの学生による防災に関するデザインの共同研究)にかかる経費を見込みましたが予算額を下回りました。

八王子キャンパス隣接の大栗川廃川部分、南側駐輪場隣接地の土地購入。新図書館や新校舎建築に係る外構工事、厨房除害施設設置他のため予算額を上回りました。

多摩美術大学奨学金の原資の一部である受取利息を増加させるため、長期定期預金預入を3億円増額しました。奨学基金寄付金50,000千円を第3号基本金引当資産として設定しました。

当年度資金収支差額(A)-(B)	2,657,056	1,880,159	776,897
------------------	-----------	-----------	---------

(2)消費収支計算

消費収支計算について、その主な内容を報告します。

【消費収支計算総括表】

(消費収入の部)

(単位:千円)

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	7,722,000	7,812,534	90,534
手数料	259,500	266,093	6,593
寄付金	60,000	110,781	50,781
補助金	504,250	554,716	50,466
資産運用	63,000	102,877	39,877
事業収入	72,800	86,546	13,746
雑収入	131,250	153,371	22,121
帰属収入	8,812,800	9,086,918	274,118
基本金組入額合計	3,761,500	4,293,873	532,373
消費収入の部合計	5,051,300	4,793,045	258,255

70周年記念事業資金募金の他、現物寄付金として故)上野泰郎名誉教授日本画作品やPC関連機材をいただきました。

国債・政府保証債や長期定期預金などの長期運用および政府短期証券(FB)・割引短期国債(TB)などの短期運用を増加させました。

科学技術振興機構「CREST」などの産学共同の受託研究収入および生涯学習講座の受講料が増加し予算を上回りました。

(支出の部)

科目	予算	決算	差異
人件費	3,727,160	3,666,636	60,524
教育研究経費	2,933,400	2,640,944	292,456
(うち減価償却額)	1,377,000	1,293,837	83,163
管理経費	439,500	396,301	43,199
(うち減価償却額)	107,200	107,104	96
借入金等利息	122,500	121,699	801
資産処分差額	40,400	22,613	17,787
予備費	512,700	—	512,700
消費支出の部合計	7,775,660	6,848,193	927,467

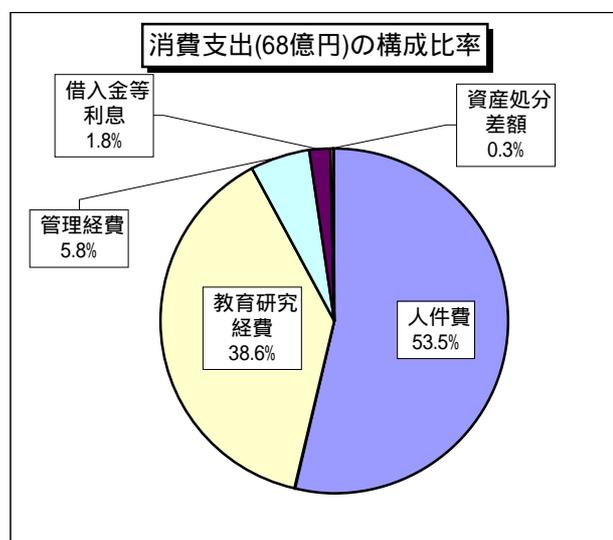
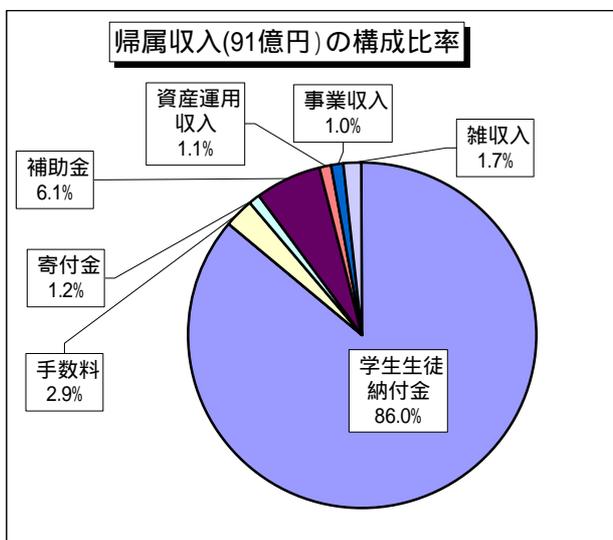
キャンパス整備の充実により建物や機器備品などの資産の増加とともに減価償却額が増額しています。

上記の結果、帰属収入は274百万円予算を上回り、帰属収支差額比率は24.6%になりました。これは次年度以降も継続される施設整備計画の資金として充当されます。当年度の消費支出超過額は2,055百万円とH14年度から5ヵ年連続の支出超過となり、その繰越消費支出超過額は5,149百万円になりました。この多額の消費支出超過額は、自己資金による施設設備充実の結果生じたもので、中長期的には消費支出超過額を解消し消費収支の均衡が図られる運営をめざします。

帰属収支差額 (注1)	1,037,140	2,238,725	1,201,585
帰属収支差額比率 (注2)	11.8%	24.6%	—
当年度消費支出超過額	2,724,360	2,055,148	—
前年度消費支出超過額	3,094,440	3,094,440	—
翌年度繰越消費支出超過額	5,818,800	5,149,588	—

注1 帰属収支差額 = 帰属収入 - 消費支出

注2 帰属収支差額比率 = 帰属収支差額 ÷ 帰属収入 × 100



(3) 貸借対照表

貸借対照表について、前年度からの増減を報告します。

【貸借対照表】

(資産の部) (単位:千円)

科目	H18年度末	H17年度末	増減	
資 産	固定資産	55,130,210	50,648,394	4,481,816
	有形固定資産	42,752,306	38,219,598	4,532,708
	その他の固定資産	12,377,904	12,428,796	50,892
流動資産	5,585,388	7,488,416	1,903,028	
合計	60,715,598	58,136,810	2,578,788	

八王子キャンパス = 土地 - 大栗川廃川部分584㎡他購入、建物 - 新図書館、芸学・情報デザイン棟、第二工作工房他1新築、構築物 - 厨房除害施設設置、東工区土木外構工事他。
上野毛キャンパス = 建物 - 3号館301空調設備改修、講堂調光設備改修他。
図書、視聴覚資料などの購入により有形固定資産は増加しました。

(負債の部・基本金の部・消費収支差額の部)

科目	H18年度末	H17年度末	増減	
負 債	固定負債	5,646,020	6,271,719	625,699
	流動負債	5,423,815	4,458,054	965,761
	計	11,069,835	10,729,773	340,062
基 本 金	第1号基本金	52,563,441	47,628,567	4,934,874
	第2号基本金	1,500,000	2,200,000	700,000
	第3号基本金	283,910	233,910	50,000
	第4号基本金	448,000	439,000	9,000
	計	54,795,351	50,501,477	4,293,874
消費収支差額	5,149,588	3,094,440	2,055,148	
負債、基本金、消費収支差額の部合計	60,715,598	58,136,810	2,578,788	

資産運用のための長期有価証券や長期定期預金は各3億円増加しました。
多摩美術大学施設整備資金引当資産22億円は新図書館などが完成し工事代金支払のため現金預金へ繰入した結果、残高が減少しました。

現金預金から施設整備資金引当資産へ15億円の繰入などにより流動資産は減少しました。

借入金返済により負債は減少しました。

新図書館建築工事精算金971百万円の未払いによる増加。

(参考)

正味資産額	49,645,763	47,407,037	2,238,726
正味資産 = 資産 - 負債			
減価償却額の累計額	11,086,863	9,806,023	1,280,840
基本金未組入額	1,605,677	999,327	606,350

平成18年度自己資金による固定資産の新規取得や過年度の固定資産取得にかかる借入金の返済額相当を基本金へ組み入れました。

貸借対照表についてH16年度～H14年度を報告します。

(資産の部) (単位:千円)

科目	H16年度末	H15年度末	H14年度末	
資 産	固定資産	47,554,848	42,753,426	39,421,405
	有形固定資産	38,124,640	36,902,022	34,579,140
	その他の固定資産	9,430,208	5,851,404	4,842,265
流動資産	9,384,007	12,329,549	13,616,632	
合計	56,938,855	55,082,975	53,038,037	

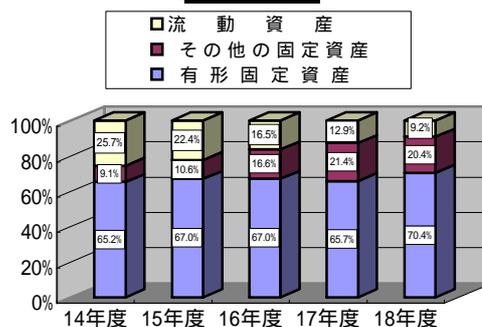
(負債の部・基本金の部・消費収支差額の部)

科目	H16年度末	H15年度末	H14年度末	
負 債	固定負債	6,917,950	7,505,837	7,932,344
	流動負債	4,235,344	3,947,212	3,966,078
	計	11,153,294	11,453,049	11,898,422
基 本 金	第1号基本金	45,683,198	42,984,571	38,962,864
	第2号基本金	1,500,000	1,500,000	1,000,000
	第3号基本金	233,910	212,734	212,734
	第4号基本金	435,000	435,000	401,000
	計	47,852,108	45,132,305	40,576,598
消費収支差額	2,066,547	1,502,379	563,017	
負債、基本金、消費収支差額の部合計	56,938,855	55,082,975	53,038,037	

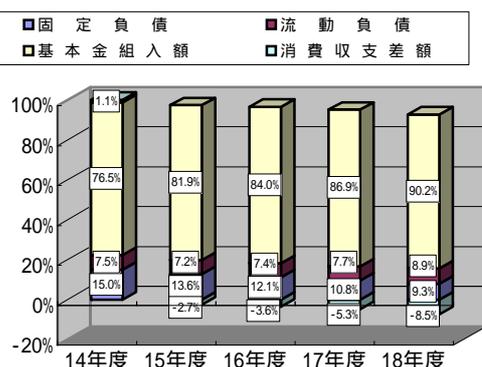
(参考)

正味資産額	45,785,561	43,629,926	41,139,615
正味資産 = 資産 - 負債			
減価償却額の累計額	9,118,662	8,092,860	7,028,168
基本金未組入額	1,562,378	2,015,642	2,649,576

資産構成比率



負債、基本金、収支差額構成比率



(4) 財務比率 < 平成12年度から平成18年度 >

芸術系平均値は、日本私立学校振興・共済事業団編『今日の私学財政』平成18年度版より算出しました。

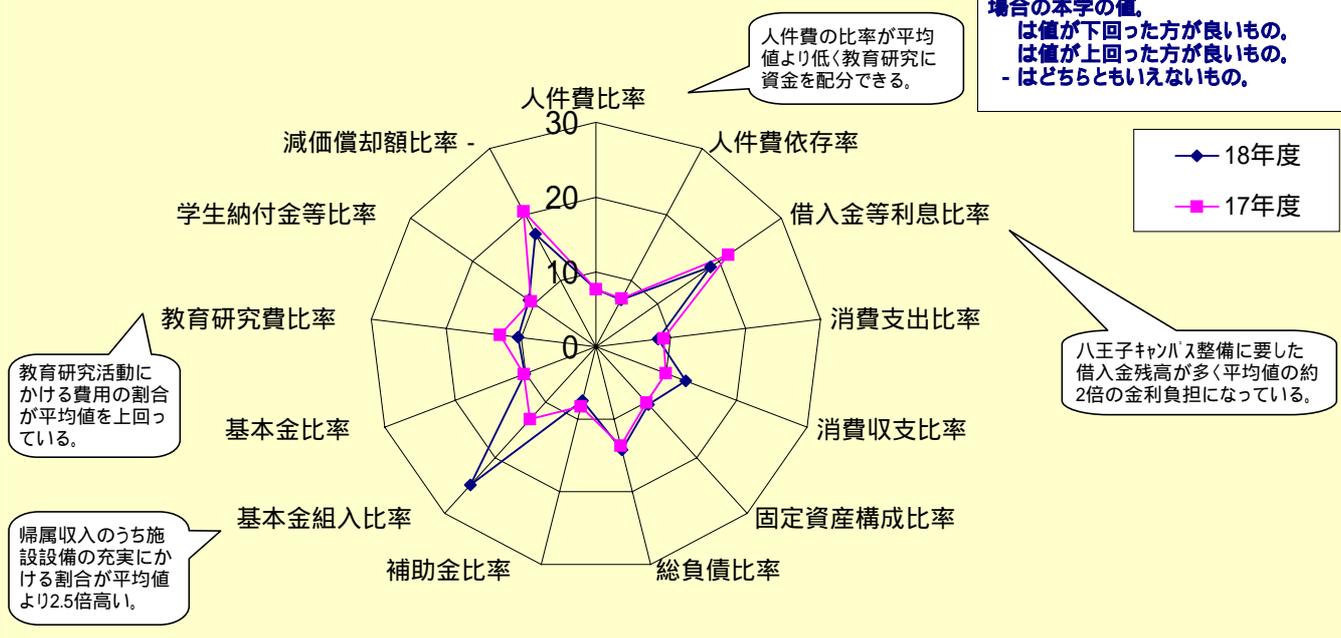
項目	算式	評価	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	芸術系平均値
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$		41.1%	39.8%	39.6%	40.3%	38.9%	40.5%	40.4%	52.5%
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生納付金}}$		47.3%	46.3%	46.2%	46.9%	45.2%	47.3%	46.9%	66.3%
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金利息}}{\text{帰属収入}}$		2.5%	2.1%	1.9%	1.9%	1.7%	1.5%	1.3%	0.7%
消費支出比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$		74.1%	73.6%	72.8%	72.6%	76.2%	82.3%	75.4%	90.9%
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$		97.3%	94.8%	100.3%	145.3%	111.7%	115.8%	143.0%	112.2%
固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$		75.5%	74.1%	74.3%	77.6%	83.5%	87.1%	90.8%	87.1%
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$		24.9%	21.6%	22.4%	20.8%	19.6%	18.5%	18.2%	12.8%
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$		6.2%	6.5%	6.2%	6.5%	5.4%	6.6%	6.1%	8.2%
基本金組入比率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{帰属収入}}$		23.9%	22.4%	27.4%	50.0%	30.0%	29.0%	47.3%	19.0%
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$		94.8%	96.0%	93.9%	95.7%	96.8%	97.9%	97.0%	96.0%
教育研究費経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$		26.6%	23.6%	26.7%	26.3%	29.2%	34.7%	29.1%	28.0%
学生納付金等比率	$\frac{\text{学生納付金}}{\text{帰属収入}}$		86.9%	86.0%	85.8%	86.0%	86.2%	85.6%	86.0%	79.2%
減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{消費支出}}$	-	16.2%	15.7%	16.4%	17.6%	19.3%	25.2%	20.5%	12.0%

財務分析

人件費比率 = 帰属収入に対する割合を示す重要な比率で本学は平均値を下回っている。
 人件費依存率 = 学生納付金に対する割合で一般的には低い方が望ましい。
 借入金利息比率 = 低い方が良い。本学は八王子キャンパス整備に要した借入金残高が大きく、平均値を上回っている。
 消費支出比率 = 人件費や管理経費、教育研究経費などで消費された比率で低いほど良く、自己資金は充実する。
 消費収支比率 = 消費支出の消費収入に対する割合で低い方が良いとされ、比率が100%を超えると支出超過(赤字)となる。
 固定資産構成比率 = 固定資産の総資産に占める割合で低い方が良い、比率が特に高い場合は流動性に欠けるとの評価。
 総負債比率 = 低い方が良い。総資産に対する他人資金の割合。50%を超えると負債総額が自己資金を上回る。
 補助金比率 = 学生納付金に次ぐ収入源であるが私立大学等経常費補助金(国庫補助金)は年々減少。
 基本金組入比率 = 高い方が良いとされる。資産の充実や将来計画により比率が増加。
 基本金比率 = 基本金組入対象資産である要組入額に対する組入済基本金の割合で高い方が良い。
 教育研究費経費比率 = 教育研究活動にかかる費用で高い方が望ましく、本学は平均値を上回っている。
 学生納付金等比率 = 帰属収入の中で最もウェイトが高く安定推移が良い。学費のみに依存せず他の収入増も検討。
 減価償却額比率 = 将来、資産の更新時に必要である。実質的には消費されずに留保される資金。

H18年度財務諸表比率【芸術系18法人比較】

芸術系18法人の平均値を10とした場合の本学の値。
 は値が下回った方が良いもの、
 は値が上回った方が良いもの、
 - はどちらともいえないもの、



5.法人の概要

設置する学部学科の名称および入学定員と学生数

【大学・学部】

キャンパス	学部	学科	専攻・コース	入学定員	収容定員	学生数
八王子	美術学部	絵画学科	日本画	190	709	(150)
			油画			834
			版画			(541)
		彫刻学科		30	120	138
		工芸学科	陶	60	240	260
			ガラス			
			金属			
		グラフィックデザイン学科		180	626	760
		生産デザイン学科	プロダクトデザイン	85	295	356
			テキスタイルデザイン			
環境デザイン学科		80	292	354		
情報デザイン学科	情報芸術 情報デザイン	120	480	528		
芸術学科		55	221	277		
小計		800	2,983	3,507		
上野毛	造形表現学部	造形学科		40	160	190
		デザイン学科		100	400	480
		映像演劇学科		60	240	301
		小計		200	800	971
合計				1,000	3,783	4,478

カッコ内は専攻の内数

【大学院】

キャンパス	研究科	専攻	研究領域	入学定員	収容定員	学生数
八王子 及び 上野毛	美術研究科 (博士前期課程)	絵画専攻	日本画	60	120	135
			油画			
			版画			
		彫刻専攻		12	24	16
		工芸専攻		10	20	20
		デザイン専攻	グラフィックデザイン プロダクトデザイン テキスタイルデザイン 環境デザイン 情報デザイン コミュニケーションデザイン	35	53	77
	芸術学専攻		7	14	17	
小計		124	231	265		
(博士後期課程)	美術専攻		7	21	25	
合計				131	252	290

総計				1,131	4,035	4,768
----	--	--	--	-------	-------	-------

平成18年5月1日現在

所在地

法人本部・造形表現学部・大学院
〒158-8558 東京都世田谷区上野毛3-15-34
美術学部・大学院
〒192-0394 東京都八王子市鍵水2-1723
美術館
〒206-0033 東京都多摩市落合1-33-1

役員・評議員・教職員の概要

【役員】

理事長	藤谷 宣人
理事(学長)	高橋 史郎
理事	市川 保道
理事	岩井 弘安
理事	東海林 隆
理事	清田 義英
理事	竹田 光幸
理事	峯村 敏明
理事	米倉 守
監事	須田 八郎
監事	森 三千郎

【評議員】

評議員	荒川 直
評議員	五十嵐 威暢
評議員	石田 晴久
評議員	市川 保道
評議員	伊藤 孚
評議員	岩倉 信弥
評議員	大津 英敏
評議員	清田 義英
評議員	高橋 史郎
評議員	田口 敦子
評議員	竹田 光幸
評議員	鶴見 雅夫
評議員	中島 祥文
評議員	橋本 京子
評議員	福島 勝則
評議員	藤谷 宣人
評議員	本江 邦夫
評議員	森下 清子
評議員	山中 玄三郎
評議員	米倉 守

【教職員の概要(専任)】

大学教員	173名
職員	163名

平成18年5月1日現在